

博士論文（要約）

論文題目 南関東地方における砂川期の行動論的研究

氏名 高屋敷 飛鳥



## 目次

はじめに	1
第1章 先行研究と課題の設定	1
第1節 砂川研究のこれまで	1
第1項 編年	1
第2項 石器製作技術・石材分析	5
第3項 居住形態	9
第4項 有樋尖頭器	12
第2節 問題の所在	17
第3節 本研究の目指すもの	18
第2章 対象・方法・定義	19
第1節 対象	19
第2節 方法	19
第1項 研究の方法	19
第2項 行動論的諸概念	20
第3節 定義	23
第3章 最終氷期最盛期の古環境	26
第1節 古気候	26
第2節 古地形	27
第3節 植物相	32
第4節 動物相	46
第5節 食料資源	46
第6節 石材環境	47
第4章 時期区分の検討	51
第1節 検討にあたって	51
第2節 二側縁加工尖頭形石器の技術型式の特徴と石刃技法の時間的变化	53
第1項 相模野台地	53
第2項 武蔵野台地	59
第3節 尖頭器の技術型式の特徴と尖頭器製作技術の時間的变化	67
第1項 相模野台地	67
第2項 武蔵野台地	71
第4節 IV下最新段階から終末期にかけての石器群の変遷	77
第1項 相模野台地と武蔵野台地の石器群の変遷	77
第2項 相模野台地と武蔵野台地の変遷を踏まえた関東各地の石器群の変遷	78

第5章 砂川期の石材消費戦略と石器製作技術構造	81
第1節 検討にあたって	81
第2節 相模野台地の石材消費戦略	84
第3節 武蔵野台地の石材消費戦略	91
第4節 大宮台地の石材消費戦略	100
第5節 下総台地の石材消費戦略	106
第6節 周辺地域の状況	114
第7節 石刃石器群の石器製作技術構造	127
第8節 尖頭器石器群の石器製作技術構造	135
第9節 石刃石器群と尖頭器石器群の技術的共通点	143
第10節 南関東地方砂川石器群の石材消費戦略と石器製作技術構造	145
第6章 砂川期の居住形態	147
第1節 石刃石器群と尖頭器石器群の行動戦略	147
第2節 相模野台地の居住行動	148
第3節 武蔵野台地の居住行動	151
第4節 大宮台地の居住行動	155
第5節 下総台地の居住行動	155
第6節 周辺地域の状況	157
第7節 南関東地方砂川石器群の居住形態	159
第7章 結論	166
引用・参考文献	170

## 挿 図 目 次

<p>図1 相模野段階編年(段階I~X) ..... 3</p> <p>図2 個別別資料の種類と砂川モデル ..... 6</p> <p>図3 武蔵野台地における台地外石材搬入・消費状況 ..... 7</p> <p>図4 武蔵野台地における台地外石材搬入状況と有樋尖頭器の分布状況 ..... 8</p> <p>図5 相模野台地における大形流域・流域遺跡分布状況 ..... 11</p> <p>図6 有樋尖頭器の型式 ..... 13</p> <p>図7 石器の階層分類 ..... 23</p> <p>図8 フールー洞窟の石筈の酸素同位体変動を基準とした段階区分 ..... 26</p> <p>図9 フールー洞窟の石筈とGISP2の酸素同位体変動の比較 ..... 27</p> <p>図10 関東平野の地形面分布図 ..... 28</p> <p>図11 武蔵野台地の地形区分 ..... 28</p> <p>図12 相模野台地の段丘面 ..... 29</p> <p>図13 相模野台地の段丘編年表 ..... 29</p> <p>図14 関東地方旧河川・海岸線等推定復元図 ..... 31</p> <p>図15 関東地方の氷期・間氷期変動を通じての植生と環境の変化モデル ..... 33</p> <p>図16 LGMの日本列島の植生 ..... 33</p> <p>図17 LGMの関東地方の垂直植生帯の模式図 ..... 34</p> <p>図18 関東地方石材分布図 ..... 49</p> <p>図19 相模野台地のAMS年代 ..... 54</p> <p>図20 相模野台地における二側縁加工尖頭形石器の変遷 ..... 55</p> <p>図21 大和配水池内遺跡第V・VI文化層出土石器群 ..... 56</p> <p>図22 福田丙二ノ区遺跡第I・II文化層出土石器群 ..... 57</p> <p>図23 小保戸遺跡第2・3文化層出土石器群 ..... 58</p> <p>図24 武蔵野台地のAMS年代 ..... 60</p> <p>図25 武蔵野台地における二側縁加工尖頭形石器の変遷 ..... 61</p> <p>図26 下原富士見町遺跡垂直区分帯16・18出土石器群 ..... 62</p> <p>図27 下原富士見町遺跡垂直区分帯12・14出土石器群 ..... 63</p> <p>図28 多聞寺前遺跡IV上・IV中・IV下文化層出土石器群 ..... 64</p> <p>図29 中村遺跡第V文化層(C地区)第12ブロック遺物分布状況 ..... 68</p> <p>図30 相模野台地における尖頭器の変遷 ..... 69</p> <p>図31 武蔵野台地遺物分布状況 ..... 74</p> <p>図32 武蔵野台地における尖頭器の変遷 ..... 76</p>	<p>図33 北関東・愛鷹山麓のAMS年代 ..... 78</p> <p>図34 石刃石器群の工程区分と代表資料 ..... 82</p> <p>図35 尖頭器石器群の工程区分と代表資料 ..... 83</p> <p>図36 相模野台地における砂川期の遺跡分布状況 ..... 85</p> <p>図37 相模野台地における凝灰岩、チャート消費状況 ..... 87</p> <p>図38 相模野台地における黒曜石消費状況 ..... 89</p> <p>図39 相模野台地におけるメノウ・玉髄、碧玉、黒色頁岩、硬質頁岩分布状況 ..... 90</p> <p>図40 相模野台地における尖頭器分布状況 ..... 91</p> <p>図41 武蔵野台地における砂川期の遺跡分布状況 ..... 93</p> <p>図42 武蔵野台地におけるチャート、凝灰岩消費状況 ..... 96</p> <p>図43 武蔵野台地における黒曜石消費状況 ..... 97</p> <p>図44 武蔵野台地におけるメノウ・玉髄、碧玉、黒色頁岩、硬質頁岩消費状況 ..... 98</p> <p>図45 武蔵野台地における尖頭器分布状況 ..... 99</p> <p>図46 大宮台地における砂川期の遺跡分布状況 ..... 101</p> <p>図47 大宮台地におけるチャート、凝灰岩消費状況 ..... 103</p> <p>図48 大宮台地における黒曜石、黒色頁岩、硬質頁岩消費状況 ..... 104</p> <p>図49 大宮台地におけるメノウ・玉髄、碧玉消費状況、尖頭器分布状況 ..... 105</p> <p>図50 下総台地における砂川期の遺跡分布状況 ..... 107</p> <p>図51 下総台地における黒曜石消費状況 ..... 111</p> <p>図52 下総台地における頁岩消費状況 ..... 112</p> <p>図53 下総台地における凝灰岩、チャート、メノウ・玉髄、碧玉消費状況 ..... 113</p> <p>図54 下総台地における尖頭器分布状況 ..... 114</p> <p>図55 周辺地域における砂川期の遺跡分布状況 ..... 116</p> <p>図56 群馬・栃木における黒曜石消費状況 ..... 118</p> <p>図57 群馬・栃木におけるチャート、凝灰岩消費状況 ..... 119</p> <p>図58 群馬・栃木における頁岩消費状況 ..... 120</p> <p>図59 群馬・栃木におけるメノウ・玉髄、碧玉消費状況、尖頭器分布状況 ..... 121</p> <p>図60 栃木・茨城における黒曜石、チャート、凝灰岩消費状況 ..... 122</p> <p>図61 栃木・茨城における頁岩、メノウ・玉髄、碧玉消費状況、尖頭器分布状況 ..... 123</p> <p>図62 愛鷹山麓～富士川下流部における黒曜石、凝灰岩、チャート消費状況 ..... 124</p> <p>図63 愛鷹山麓～富士川下流部におけるメノウ・玉髄、碧玉、頁岩消費状況、尖頭器分布状況 ..... 125</p> <p>図64 信州黒曜石原産地周辺における石材消費状況、尖頭器分布状況 ..... 126</p>
---	---

図 65 石刃石器群製作関連資料 1	128	図 76 武蔵野台地における尖頭器石器群のリダクション・ シークエンスと石材消費模式図	141
図 66 石刃石器群製作関連資料 2	129	図 77 下総台地における尖頭器石器群のリダクション・ シークエンスと石材消費模式図	142
図 67 石刃石器群製作関連資料 3	130	図 78 石刃石器群と尖頭器石器群の関係模式図	144
図 68 石刃石器群製作関連資料 4	132	図 79 相模野台地内推定ルート・拠点地 1	149
図 69 石刃石器群製作関連資料 5	133	図 80 相模野台地内推定ルート・拠点地 2	150
図 70 石刃石器群製作関連資料 6	134	図 81 武蔵野台地内推定ルート・拠点地	152
図 71 石刃石器群のリダクション・シークエンスと石材消費 模式図	135	図 82 大宮台地内推定ルート・拠点地	154
図 72 尖頭器石器群製作関連資料 1	136	図 83 下総台地内推定ルート・拠点地	156
図 73 尖頭器石器群製作関連資料 2	137	図 84 関東地方の行動推定図 1	164
図 74 尖頭器石器群製作関連資料 3	138	図 85 関東地方の行動推定図 2	165
図 75 尖頭器石器群製作関連資料 4	139		

## 挿 表 目 次

表 1 砂川期編年対比表	5	表 12 武蔵野台地の砂川期尖頭器一覧 4	73
表 2 フォレジャー・コレクターモデル	20	表 13 相模野台地における砂川石器群の石材消費状況一覧	86
表 3 関東地方の砂川期花粉分析結果一覧	36	表 14 武蔵野台地における砂川石器群の石材消費状況一覧	94
表 4 関東地方の砂川期樹種同定結果一覧	40	表 15 大宮台地における砂川石器群の石材消費状況一覧	102
表 5 関東地方の砂川期植物珪酸体結果一覧	43	表 16 下総台地における砂川石器群の石材消費状況一覧	108
表 6 AMS 年代測定一覧	52	表 17 周辺地域における石材消費消費状況一覧	117
表 7 相模野台地の砂川期尖頭器一覧 1	66	表 18 南関東地方砂川石器群の居住形態まとめ	161
表 8 相模野台地の砂川期尖頭器一覧 2	67		
表 9 武蔵野台地の砂川期尖頭器一覧 1	71		
表 10 武蔵野台地の砂川期尖頭器一覧 2	72		
表 11 武蔵野台地の砂川期尖頭器一覧 3	73		

本文

5年以内に出版予定

## 引用・参考文献

(論文)

- 阿子島香 1983 「ミドルレンジセオリー」『考古学論叢 I』 芹沢長介先生還暦記念論文集、171-197 頁
- 麻生順司 2015 「大和市域を中心とした旧石器時代の変遷について  
—上草柳遺跡群大和配水池内遺跡の調査事例を基に—」『大和市史研究』 39、1-44 頁
- 安斎正人 1990 『無文字社会の考古学』 六興出版
- 安蒜政雄 1974 「砂川遺跡についての一考察」『史館』 2、1-8 頁
- 安蒜政雄 1977a 「砂川遺跡についての一考察」『史館』 9、12-20 頁
- 安蒜政雄 1977b 「遺跡の中の遺物」『季刊どるめん』 15、50-62 頁
- 安蒜政雄 1978 「先土器時代の研究」『日本考古学を学ぶ』 (1)、70-84 頁
- 安蒜政雄 1985 「先土器時代における遺跡の群集的な成り立ちと遺跡群の構造」『論集日本原史』、  
吉川弘文館、193-216 頁
- 安蒜政雄 1990 「先土器時代人の生活空間—先土器時代のムラー」『景観 I 原始・古代・中世』  
(日本村落史講座 2)、雄山閣、3-22 頁
- 安蒜政雄 1992 「砂川遺跡における遺跡の形成過程と石器製作の作業体系」『駿台史学』 86、101-128 頁
- 安蒜政雄・戸沢充則 1975 「砂川遺跡」『日本の旧石器文化 2 遺跡と遺物 (上)』、雄山閣、158-179 頁
- 五十嵐彰 1998 「考古資料の接合—石器研究における母岩・個体問題—」『史学』 67-3・4、105-128 頁
- 五十嵐彰 2002 「旧石器資料関係論—旧石器資料報告の現状 (Ⅲ) —」『研究論集』 19、33-72 頁
- 五十嵐彰 2013 「石器資料の製作と搬入：砂川三類型区分の再検討」『史学』 81-4、125-140 頁
- 池谷信之・前嶋秀張 2020 「愛鷹山麓における石材の変遷と社会的背景」『愛鷹山麓の旧石器文化』  
敬文舎、185-223 頁
- 市川雅洋・鈴木美保 2016 「1 垂直区分帯・集中部設定の基準と方法」『下原・富士見町遺跡Ⅲ  
後期旧石器時代の発掘調査 (1) 石器群の概要と出土状況』  
明治大学校地内遺跡調査団調査研究報告書 5、12-14 頁
- 出居博 1984 「旧石器時代に於ける礫群出現の意義と茂呂系文化への導入に関するノート」『唐澤考古』 4、  
15-21 頁
- 伊藤健 1989a 「槌状剥離を有する尖頭器の技術と形態」『東京考古』 7、1-27 頁
- 伊藤健 1989b 「槌状剥離を有する尖頭器の編年と変遷」『古代』 88、1-40 頁
- 伊藤健 2018 「後期旧石器時代「武蔵野編年」の新地平」『研究論集』 32、27-55 頁
- 伊藤恒彦 1979 「天神堂遺跡石器群の再検討」『甲斐考古』 16 の 2
- 稲田晃・大浜和子・島村健二 1998 「千葉県八千代市新川低地における最終氷期後期以降の植生変遷」  
『第四紀研究』 37-4、283-298 頁
- 稲田孝司 1977 「旧石器時代の小集団について」『考古学研究』 24-2、83-89 頁
- 大野正男 1996 「動物」『千葉県の自然誌本編 1 千葉県の自然』 千葉県、185-197 頁
- 小田静夫 1980 「広域火山灰と先土器時代遺跡の編年」『史館』 12、1-16 頁
- 織笠明子 2001 「「砂川」研究と「砂川型刃器技法」」『石器文化研究』 10、55-60 頁
- 織笠昭 1977 「石器」『新橋遺跡』 新橋遺跡調査会、18-74 頁
- 貝塚爽平 1974 「関東地方の島弧における位置と第四紀地殻変動」『関東地方の地震と地殻変動』ラテイス、



99-118 頁

貝塚爽平 1979 『東京の自然史<増補第二版>』 紀伊國屋書店

貝塚爽平 1987 「関東の第四紀地殻変動」 『地学雑誌』 96、223-240 頁

貝塚爽平 2000 「1-2 地形研究史の概要」 『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』 東京大学出版会、6-14 頁

角張淳一 1991 「黒曜石原産地と消費地遺跡のダイナミズム—後期旧石器時代石器群の行動論的理解—」  
『先史考古学論集』 1、25-82 頁

角張淳一 1994 「後期旧石器時代後半期の黒曜石原産地と南関東に出土する尖頭器の評価」  
『中部高地の考古学IV』 35-44 頁

神奈川県考古学会 1980 『神奈川考古』 8

加納実・国武貞克・吉野真如 2003 「房総の石器石材 2—白滝層の珪質頁岩—」  
『千葉県史料研究財団だより』 第 14 号、5・6 頁

榎根勇 1992 『地下水の世界』 NHK 出版

榎根勇 2013 『地下水と地形の科学—水文学入門—』 講談社学術文庫

川上 元・神村 透・森山公一 1976 「長野県小県郡和田村唐沢へイゴロゴローの旧石器文化資料」  
『長野県考古学会誌』 26

川口潤 1988 「槌状剥離を有する尖頭器の再検討—製作工程の復元を中心として—」 『旧石器考古学』 36、  
29-54 頁

河村善也 2010 「5 更新世の哺乳類」 『講座日本の考古学 1 旧石器時代 (上)』 青木書店、178-195 頁

菊池隆男 1981 「先史時代の利根川水系とその変遷」 『アーバンクボタ』 19、2-5 頁

旧石器時代研究プロジェクトチーム 1996 「旧石器時代後半における石器群の諸問題  
—L2 ~ B1 層石器群の様相—」 『かながわの考古学』 1、1-36 頁

旧石器文化談話会 2007 『旧石器考古学辞典<三訂版>』 学生社

楠田隆 1994 「印旛沼の成因と性格」 『印旛沼 自然と文化』 1

工藤雄一郎 2012 『旧石器・縄文時代の環境文化史』 新泉社

国武貞克 2000 「石材消費からみた領域—台地外石材による遺跡連鎖を標識として—」 『石器文化研究』 9、  
235-261 頁

国武貞克 2002a 「旧石器時代の領域分析—特定共時における‘戦略束’—」  
『東京大学考古学研究室研究紀要』 17、1-68 頁

国武貞克 2002b 「武蔵野台地・大宮台地の面取り尖頭器」 『有槌尖頭器の発生・変遷・終焉』 予稿集、  
31-52 頁

国武貞克 2003 「両面体調整石器群の由来—関東地方 V 層・IV 層下部段階から砂川期にかけての  
石材消費戦略の連続性—」 『考古学』 1、52-77 頁

国武貞克 2007 「石材と行動」 『ゼミナール旧石器考古学』 同成社、129-144 頁

久保純子 1997 「相模川下流平野の埋没段丘からみた酸素同位体ステージ 5a 以降の海水準変化と地形発達」  
『第四紀研究』 36-3、147-163 頁

久保純子 2000 「5-6(3) 相模野台地と相模川低地」 『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』 東京大学出版会、  
250-256 頁

久保純子 2007 「多摩川の流路変遷と野川・多摩川間の地形の変遷—立川段丘の区分に関連して—」  
『野川流域の旧石器時代』 六一書房、75-84 頁

久保純子 2008 「酸素同位体ステージ 3 の時代の武蔵野台地」 『後期旧石器時代の成立と古環境復元』

124-134 頁

栗島義明 1984 「第Ⅲ章第 1 節ブロックの構成と機能—個別別資料からみたブロックのあり方—」

『多聞寺前遺跡Ⅱ』475-514 頁

栗島義明 1986 「先土器時代遺跡の構造論的研究序説」『土曜考古』11、55-87 頁

栗島義明 1987 「先土器時代における移動と遺跡形成に関する一考察」『古代文化』39-4、21-32 頁

黒坪一樹 1983 「日本先土器時代における敲石類の研究（上）」『古代文化』35-12、11-31 頁

黒坪一樹 1984 「日本先土器時代における敲石類の研究（下）」『古代文化』36-3、17-33 頁

黒坪一樹 2004 「飛騨トチムキ石と岩宿時代敲石研究への視点」『山下秀樹氏追悼考古学論集』15-24 頁

黒坪一樹 2007 「植物食利用の敲石類」『岩宿フォーラム 2007/ シンポジウム 敲石・叩き石 予稿集』  
56-61 頁

小池聡 1998 「相模野の有樋尖頭器—月見野遺跡群上野遺跡第 10 地点資料とその他の出土例から—」

『神奈川考古』34、25-48 頁

小林謙一 2008 「日本列島における初期定住化遺構の年代測定研究」『白門考古論叢Ⅱ』1-28 頁

小林達雄・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男 1971 「野川先土器時代遺跡の研究」『第四紀研究』10-4、  
231-252 頁

小林広和・藤本丑雄・里村晃一 1976 「山梨県権現堂石器文化の調査（第 1 次）」『信濃』28-4

小原俊行・鈴木茂・関口博幸 2021 「後期旧石器時代の古環境変遷とテフラ年代研究の現状

—群馬県萩原遺跡の分析結果を中心に—」『研究紀要』39、1-20 頁

財団法人印旛沼環境基金 2002 『大いなる印旛沼—過去・現在・未来—』

相模原市 2009 『相模原周辺の関東ローム層中の植物珪酸体からみた過去 8 万年間の気候植生変化史』  
相模原市史調査報告書 3

佐々木高明 1991 『日本の歴史①日本史誕生』集英社

佐瀬隆・加藤芳朗・細野衛・青木久美子・渡邊眞紀子 2006 「愛鷹山南麓域における黒ボク土層生成史」  
『地球科学』60、147-163 頁

佐瀬隆・細野衛・宇津川徹・加藤定男・駒村正治 1987 「武蔵野台地成増における関東ローム層の植物  
珪酸体分析」『第四紀研究』26-1、1-11 頁

佐瀬隆・町田洋・細野衛 2009 『相模原周辺の関東ローム層中の植物珪酸体からみた過去 8 万年間の気候  
植生変化史』相模原市史調査報告書 3、相模原市

佐藤宏之 1991 「「尖頭器文化」概念の操作的有効性に関する問題点」『長野県考古学会研究叢書』1

佐藤宏之 1993 『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房

佐藤宏之 1995 「技術的組織・変形論・石材受給—下総台地後期旧石器時代の社会生態学的考察—」  
『考古学研究』42-1、27-53 頁

佐藤宏之 1997 「日本旧石器時代研究と居住形態論—関東地方後期旧石器時代前半期から後半期への  
移行を中心として—」『住の考古学』同成社、2-12 頁

佐藤宏之 2007 「第 1 章 分類と型式」『ゼミナール旧石器考古学』同成社、15-31 頁

佐藤宏之 2010 「旧石器時代集団の行動生態論研究」『講座日本の考古学 2 旧石器時代（下）』青木書店、  
373-391 頁

佐藤良二 2001 「“砂川型刃器技法”について」『石器文化研究』10、27-29 頁

沢田敦 2019 「第 2 節 しぐね遺跡出土石器の顕微鏡観察—有樋尖頭器石器群における石器の機能と  
運搬—」『しぐね遺跡』津南町文化財調査報告第 74 輯、84-100 頁

- 沢田敦 2020 「運搬痕跡研究とその考古学的意義」『石器痕跡研究の理論と実践』同成社、49-83 頁
- 下岡順直 2016 「浅間板鼻褐色軽石群と前橋泥流の年代観—放射性炭素年代を中心に—」  
『ナイフ形石器文化の発達期と変革期—浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群—予稿集』  
岩宿フォーラム 2016 / シンポジウム 20-26 頁
- 柴田徹 1987 「関東地方の主要な川の川原に分布する岩石種について」  
『千葉県文化財センター研究紀要』11、19-31 頁
- 柴田徹 1994 「使用石材からみた旧石器時代の南関東における地域性について」  
『松戸市立博物館紀要』第1号、3-25 頁
- 島田和高 1996 「移動生活のなかの石器作りの営み—砂川型刃器技法の再検討—」『駿台史学』98、  
47-75 頁
- 島田和高 1998 「中部日本南部における旧石器地域社会の様相  
—砂川期における地区の成り立ちと地域の構造—」『駿台史学』102、1-49 頁
- 白石浩之 1973 「茂呂系ナイフ形石器の細分と変遷に関する一試論」『物質文化』12、41-55 頁
- 白石浩之 1978 「西南日本におけるナイフ形石器終末期の予察」『神奈川考古』3、1-29 頁
- 白石浩之 1986 「ナイフ形石器文化終末期の様相」『神奈川考古』22
- 白石浩之 1997 「石槍の分布とその様相—槌状剥離尖頭器から見た集団の動き—」『人間・遺跡・遺物 3  
—麻生優先生退官記念論文集—』、27-47 頁
- 白鳥孝治 2014 『印旛沼物語』印旛沼流域水循環健全化調査研究報告 2
- 須貝俊彦・松島紘子・水野清秀 2013 「過去 40 万年間の関東平野の地形発達史」『地学雑誌』122-6、  
921-948 頁
- 杉原荘介 1953 「日本における石器文化の階梯について」『考古学雑誌』39-2、21-25 頁
- 杉原荘介 1971 「4 今島田遺跡」『市川市史 第1巻 原始・古代』市川市史編纂委員会、118-123 頁
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体 (プラント・オパール)」『考古学と植物学』同成社、189-213 頁
- 杉山真二 2001 「テフラと植物珪酸体分析」『月刊地球』23-9、645-650 頁
- 杉山真二・早田勉 1996 「植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の高環境推定  
—中期更新世以降の氷期—間氷期サイクルの検討—」『日本第四紀学会講演要旨集』26、126・127 頁
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定  
—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』19、69-84 頁
- 鈴木次郎 1984 「第V文化層の特徴と問題点」『栗原中丸遺跡』278-288 頁
- 鈴木次郎 1986 「ナイフ形石器の終末と槍先形尖頭器石器群の出現—相模野第IV期石器群の構造的理解—」  
『神奈川考古』22、79-102 頁
- 鈴木次郎 1997 「南関東におけるナイフ形石器文化の彫器 (3) —いわゆる「細原型彫器」について—」  
『神奈川考古』33、1-32 頁
- 鈴木次郎・矢島國雄 1978 「先土器時代の石器群とその編年」『日本考古学を学ぶ』1、有斐閣、  
154-182 頁
- 鈴木毅彦 2000 「5-6(1) 多摩川・荒川間の丘陵・台地・低地—武蔵野台地を中心に—」  
『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、232-238 頁
- 鈴木正章・吉川昌伸・遠藤邦彦・高野司 1993 「茨城県桜川低地における過去 32,000 年間の環境変遷」  
『第四紀研究』32-4、195-208 頁
- 鈴木忠司 1988 「素描・日本先土器時代の食糧と生業」『朱雀』1、1-40 頁

- 鈴木忠司 2004a 「岩宿時代人はドングリを食べたか—石蒸し調理実験から—」  
『山下秀樹氏追悼考古学論集』45-55 頁
- 鈴木忠司 2004b 「続・岩宿時代人はドングリを食べたか—水さらしアク抜き実験から—」『朱雀』16、  
1-25 頁
- 鈴木忠司 2008 「岩宿時代の植物質食料」『旧石器研究』4、35-48 頁
- 鈴木美保 2000 「後期旧石器時代後半期の行動論的理解に向けて—ナイフ形石器文化の中の「砂川」—」  
『石器文化研究』9、277-289 頁
- 鈴木道之助 1975 「木刈峠遺跡」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』  
千葉県企業庁・財団法人千葉県都市公社
- 須藤隆司 2014 「削片系両面調整石器—男女倉・東内野型有樋尖頭器の再構築—」『資源環境と人類』4、  
39-56 頁
- 諏訪間順 1983 「相模原市長久保遺跡採集の石器」『神奈川考古』15、17-23 頁
- 諏訪間順 1988 「相模野台地における石器群の変遷について—層位的出土例の検討による石器群の段階的  
把握—」『神奈川考古』24、1-30 頁
- 諏訪間順 2000 「「砂川」の時間的枠組みと前後の変遷」『石器文化研究』9、15-22 頁
- 諏訪間順 2006 「相模野台地における黒曜石利用の変遷」『黒曜石研究』4、151-160 頁
- 諏訪間順 2019 『相模野台地の旧石器考古学』新泉社
- 諏訪間順・野口淳・島立桂 2010 「関東地方南部」『講座日本の考古学 1 旧石器時代 (上)』青木書店、  
381-437 頁
- 諏訪間順・堤隆 1985 「神奈川県大和市深見諏訪山遺跡第Ⅳ文化層の石器群について」  
『旧石器考古学』30、85-108 頁
- 関口博幸 1992 「槍先形尖頭器の変容過程—相模野台地における槍先形尖頭器の製作と廃棄のプロセス—」  
『研究紀要』10、群馬県埋蔵文化財調査事業団、1-26 頁
- 関口博幸 2002 「砂川期石器群における石器製作構造—東長岡戸井口遺跡出土石器群の分析から—」  
『研究紀要』22、35-50 頁
- 関口博幸 2008 「後期旧石器時代における前橋泥流をめぐる遺跡形成史」  
『更新世の地形発達史と遺跡群の形成』岩宿フォーラム 2008/ シンポジウム予稿集、36-43 頁
- 関口昌和・諏訪間順 2005 「伊豆柏峠黒曜石原産地採集の石刃石核」『旧石器研究』1、81-94 頁
- 石器文化研究会 1999 『石器文化研究』8
- 石器文化研究会 2000 『石器文化研究』9
- 石器文化研究会 2001 『石器文化研究』10
- 芹沢長介 1954 「関東及び中部地方に於ける無土器文化の終末と縄文文化の発生とに関する予察」  
『駿台史学』4
- 滝沢浩 1962 「埼玉県市場坂遺跡略報—ナイフ形石器を主体とするインダストリー—」『考古学手帖』4-7 頁
- 滝沢浩 1964 「埼玉県市場坂遺跡—関東地方におけるナイフ形石器文化の一樣相—」『埼玉考古』2、  
39-56 頁
- 高槻成紀 1992 『北に生きるシカたち—シカ、ササそして雪をめぐる生態学』どうぶつ社
- 高橋啓一 2007 「日本列島における鮮新—更新世における陸生哺乳動物相の形成過程」『旧石器研究』3、  
5-13 頁
- 田中英司 1979 「武蔵野台地Ⅱ b 期前半の石器群と砂川期の設定について」『神奈川考古』7、65-74 頁

- 田中英司 1980 「2 尖頭器の共存について」『神奈川考古』8、117-122 頁
- 田中英司 1984 「砂川型式期石器群の研究」『考古学雑誌』69-4、1-33 頁
- 田村隆 1992 「遠い山・黒い石—武蔵野Ⅱ期石器群の社会生態学的一考察—」『先史考古学論集』2、1-46 頁
- 田村隆 1993 「野辺山を視る眼—石器の行動理論構築に向けて—」『細石刃文化研究の新たなる展開Ⅱ』280-298 頁
- 田村隆 2000 「木蒨峠再訪—房総半島小型石槍の変遷—」『千葉県史研究』8、28-57 頁
- 田村隆 2006 「関東地方の地域編年」『旧石器時代の地域編年的研究』同成社、7-60 頁
- 田村隆 2010 「石器石材の需給と集団関係」『講座日本の考古学2 旧石器時代(下)』青木書店、98-120 頁
- 田村隆 2011 「第8章 調査成果のまとめ—特に石器群の生態的な意味について—」『谷津貝塚埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』215-222 頁
- 田村隆 2015 「礫群の形成、特に閉鎖式ピット・オープンについて」『研究連絡誌』76、1-9 頁
- 田村隆 2019 『旧石器社会と日本民俗の基層』ものが語る歴史24、同成社
- 田村隆・国武貞克 2006a 「下野—北総回廊外縁部の石器石材(第3報)」『千葉県史研究』第14号、137(1)-128(10) 頁
- 田村隆・国武貞克 2006b 「房総の石器石材5—高原山黒曜石原産地遺跡群の発見—」『千葉県史料研究財団だより』第17号、2 頁
- 田村隆・国武貞克 2007 「房総の石器石材6—下総層群の砂礫層—」『千葉県史料研究財団だより』第18号、2・3 頁
- 田村隆・国武貞克 2008 「房総の石器石材7—嶺岡—保田層群産珪質岩類について—」『千葉県史料研究財団だより』第19号、2・3 頁
- 田村隆・国武貞克・吉野真如 2003 「下野—北総回廊外縁部の石器石材(第1報)—特に珪質頁岩の分布と産状について—」『千葉県史研究』第11号、153(1)-143(11) 頁
- 田村隆・国武貞克・吉野真如 2004a 「下野—北総回廊外縁部の石器石材(第2報)」『千葉県史研究』第12号、96(1)-83(14) 頁
- 田村隆・国武貞克・吉野真如 2004b 「旧石器時代石器石材写真集」『千葉県の歴史 資料編考古4(遺跡・遺構・遺物)』千葉県、1320-1426 頁
- 田村隆・橋本勝雄 1984 「道具のうつりかわり」『房総考古学ライブラリー1 先土器時代』(財)千葉県文化財センター、218-232 頁
- 千葉県立房総風土記の丘 2002 『有樋尖頭器の発生・変遷・終焉』予稿集
- 塚田松雄 1984 「日本列島における約2万年前の植生図」『日本生態学会誌』34-2、203-208 頁
- 津島秀章 2008 「チャートをめぐる石材環境」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』26、119-130 頁
- 津島秀章・岩崎泰一 2010 「武尊山産黒色安山岩の消長—石材資源の動的理解に向けて—」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』28、1-16 頁
- 津島秀章・桜井美枝・井上昌美 2002 「黒色安山岩の採取可能地域」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』20、1-9 頁
- 辻誠一郎 1985 「火山活動と古環境」『岩波講座日本考古学2 人間と環境』岩波書店、289-317 頁
- 辻誠一郎 1987 「最終間氷期以降の植生史と変化様式—将来予測に向けて—」『百年・千年・万年後の日本の自然と人類—第四紀研究にもとづく将来予測』古今書院、157-183 頁

- 辻誠一郎 1993 「火山噴火が生態系に及ぼす影響」『火山灰考古学』古今書院、225-246 頁
- 辻誠一郎 2002 「日本列島の環境史」『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館、244-278 頁
- 辻誠一郎・小杉正人 1991 「始良 Tn 火山灰 (AT) 噴火が生態系に及ぼした影響」『第四紀研究』30-5、419-426 頁
- 堤隆 1988 「樋状剥離を有する石器の再認識 (上)」『信濃』40-4、24-45 頁
- 堤隆 1989 「樋状剥離を有する石器の再認識 (下)」『信濃』41-5、38-64 頁
- 富樫孝志 2016 『後期旧石器時代石器群の構造変動と居住行動』雄山閣
- 戸沢充則 1965 「関東地方の先土器時代」『日本の考古学 I 先土器時代』河出書房
- 戸沢充則 1968 「埼玉県砂川遺跡の石器文化」『考古学集刊』4-1、1-42 頁
- 永塚俊司 2002 「千葉県内の有樋尖頭器について」『有樋尖頭器の発生・変遷・終焉』予稿集、7-30 頁
- 長野県考古学会 1989 『長野県考古学会誌』59・60
- 中村雄紀 2013 「関東」『日本旧石器学会第 11 回講演・研究発表・シンポジウム予稿集 旧石器時代の年代と広域編年対比』、61-64 頁
- 中村雄紀 2014 「関東地方における旧石器時代の年代と編年」『旧石器研究』10、107-127 頁
- 那須孝悌 1980 「ウルム氷期最盛期の古植生について」『文部省科学研究費補助金総合研究 (A) 334049 ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究』昭和 54 年度報告書、55-66 頁
- 西井幸雄 2002 「砂川期の基礎的研究 (1)- 大宮台地、武蔵野台地、相模野台地を中心として -」『研究紀要』17、1-28 頁
- 西井幸雄・吉田健司 1987 「吠原遺跡出土の砂川型式期石器群」『川口市文化財調査報告書第 25 集 一吠原遺跡 (考察編) 一』川口市教育委員会、1-11 頁
- 西川栄明 2016 『樹木と木材の図鑑—日本の有用種 101』創元社
- 日本旧石器学会 2013 『日本旧石器学会第 11 回講演・研究発表・シンポジウム予稿集 旧石器時代の年代と広域編年対比』
- 野口敦 2005 「旧石器時代遺跡研究の枠組み—いわゆる「遺跡構造論」の解体と再構築—」『旧石器研究』1、17-37 頁
- 野嶋洋子 1994 「石蒸し焼き料理法の諸相」『民族学研究』59-2、146-160 頁
- 羽生淳子 1992 「縄文時代の集落研究と狩猟・採集民研究との接点」『物質文化』53、1-14 頁
- 羽生淳子 1993 「縄文文化の研究に民族誌はどう役立つか」『新視点日本の歴史』新人物往来社、140-147 頁
- 羽生淳子 1994 「狩猟・採集民の生業・集落と民族誌 一生態学的アプローチに基づいた民族誌モデルを中心として—」『考古学研究』41-1、73-93 頁
- 春成秀爾 1976 「先土器・縄文時代の画期について (1)」『考古学研究』22-4、68-92 頁
- 保坂康夫 2019 「礫群をめぐる砂川期の移動生活」『旧石器研究』15、53-68 頁
- 堀恭介 2017 「面取尖頭器を所持する集団の地域行動—南関東地方武蔵野台地における事例研究—」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』XXXI、49-70 頁
- 堀口萬吉 1974 「関東平野西部の地形区分と段丘面の変動」『関東地方の地震と地殻変動』ラテイス、119-127 頁
- 堀口萬吉 1993 「第 3 節 流域の変遷」『中川水系 総論・自然』埼玉県、157-180 頁
- 前嶋秀張・森嶋富士夫 2004 「旧石器時代における石斧石材の入手先を明らかにする—凝灰岩製石斧を中心として—」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立 20 周年記念論文集』、87-97 頁

- 牧田忍 1999 「妙蓮寺遺跡」『第 6 回石器文化研究交流会 一発表要旨一』  
石器文化研究会・第 6 回石器文化研究交流会ぐんま実行委員会、8-14 頁
- 町田洋 2009 「富士火山の泥流流下とその影響」『相模原市史自然編』相模原市総務局総務課市史編さん室、  
159-165 頁
- 町田洋・新井房夫 1976 「広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—」『科学』46
- 水村孝行 1984 「市場坂遺跡」『新座市史 第 1 巻 自然・考古・古代・中世 資料編』  
新座市教育委員会市史編さん室、285-294 頁
- 道澤明 1994 「東内野型尖頭器の出現と変遷」『古代文化』46-12、14-32 頁
- 宮塚義人・矢島國雄・鈴木次郎 1974 「神奈川県本蓼川遺跡の石器群について」『史館』3、1-22 頁
- 村井美子 1978 「千葉県夷隅川流域出土の『ファシットを有する石器』について」『貝塚』19
- 室井綽 1960 「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5、103-122 頁
- 明治大学黒曜石研究センター 2019 『砂川遺跡—旧石器時代研究の過去・現在・未来—』
- 望月明彦・阿部芳郎・石川日出志・安蒜政雄・矢島國雄・島田和高・吉田望 2003  
「月見野遺跡群第 I・II 遺跡出土黒曜石製石器群の産地分析」『黒曜石文化研究』2、97-124 頁
- 森嶋稔 1975 「第 2 節 旧石器文化の中から—特に男女倉技法をめぐって—」『男女倉』  
和田村教育委員会、169-173 頁
- 矢島國雄・鈴木次郎 1976 「相模野台地における先土器時代研究の現状」『神奈川考古』1、1-30 頁
- 安田喜憲 1980 『環境考古学事始 日本列島 2 万年』日本放送出版協会
- 矢部長克・青木廉二郎 1927 「関東構造盆地周辺山地に沿える段丘の地質時代」『地理学評論』3、  
79-87 頁
- 吉田明弘・鈴木三男・金憲爽・大井信三・中島礼・工藤雄一郎・安藤寿男・西本豊弘 2011  
「茨城県花室川堆積物の花粉・木材化石からみた最終氷期の環境変遷と絶滅種ヒメハリゲヤキの  
古生態」『植生史研究』20-1、27-40 頁
- Binford, L. R. 1977a General Introduction. In *For theory building in archaeology: Essays on faunal remains, aquatic resources, spatial analysis, and systemic modeling*, edited by L. R. Binford, pp. 1-10
- Binford, L. R. 1977b Forty-seven trips: A case study in the character of archaeological formation processes. In *Stone tools as cultural makers*, edited by R. V. S. Wright, pp. 24-36. Australian Institute of Aboriginal Studies, Canberra (Humanities Press, Atrantic Highlands, New Jersey).
- Binford, L. R. 1978 Nunamiut ethnoarchaeology. Academic Press, New York.
- Binford, L. R. 1979 Organization and formation processes: Looking at curated technologies. *Journal of Anthropological Research* 35-3:255-273
- Binford, L. R. 1980 Willow smoke and dog's tails: Hunter-gatherer settlement systems and archaeological site formation. *American Antiquity* 45:4-20
- Bleed, P. 1986 The optimal design of hunting weapons: maintainability and reliability. *American Antiquity* 51:737-747
- Bronk Ramsey 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51-1:337-360
- Dibble, H. L. 1987 The interpretation of Middle Palaeolithic scraper morphology. *American Antiquity* 52:109-117

- Emiliani, C. 1955 Pleistocene temperatures. *Journal of Geology* 63:538-578
- Frison, G. C. 1968 A functional analysis of certain chipped stone tools. *American Antiquity* 33:149-155
- Heinrich, H. 1988 Origin and consequences of cyclic ice rafting in the Northeast Atlantic Ocean during the past 130,000 years. *Quaternary Research* 29:142-152
- Iwase, A., Hashizume, J., Izuho, M., Takahashi, K. and Sato, H. 2012 Timing of megafaunal extinction in the late Late Pleistocene on the Japan Archipelago. *Quaternary International* 255:114-124
- Johnson, S. J., Clausen, H. B., Dansgaard, W., Fuhrer, K., Undestrup, N., Hammer, C. U., Iversen, P., Jouzel, J., Stauffer, B. and Steffensen, J. P. 1992 Irregular glacial interstadials recorded in a new Greenland ice core. *Nature* 359:311-313
- Kawamura, Y. 1991 Quaternary Mammalian Faunas in the Japanese Islands. *The Quaternary Research* (第四紀研究) 30-2:213-220
- Matsuda, I. 1974 Distribution of the recent deposits and buried landforms in the Kanto Lowland, Central Japan. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* 9:1-36
- Oda, S. and Keally, C. T. 1975 Japanese Pre-ceramic Cultural Chronology. *Occasional Papers* 2 :1-25, Archaeological Research Center, International Christian University
- Reimer, P. J., Austin, W., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R., Friedrich, M., Grootes, P., Guilderson, T., Hajdas, I., Heaton, T., Hogg, A., Hughen, K., Kromer, B., Manning, S., Muscheler, R., Palmer, J., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R., Richards, D., Scott, E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon* 62-4:725-757
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Bertrand, C. J. H., Blackwell, P. G., Buck, C. E., Burr, G. S., Cutler, K. B., Damon, P. E., Edwards, R. L., Fairbanks, R. G., Friedrich, M., Guilderson, T. P., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R. W., Remmele, S., Southon, J. R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F. W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C. E. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP *Radiocarbon* 46-3:1029-1058
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., Weyhenmeyer, C. E. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP *Radiocarbon* 51-4:1111-1150
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A.,



- Turney, C. S. M. and van der Plicht, J. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP *Radiocarbon* 55-4:1869-1887
- Wang, Y. J., Cheng, H., Edwards, R. L., An, Z. S., Wu, J. Y., Shen, C. C. and Dorale, J. A. 2001 A High-Resolution Absolute-Dated Late Pleistocene Monsoon Record from Hulu Cave, China. *Science* 294:2345-2348
- Wiessner, P. 1982 Beyond willow smoke and dog's tails: A comment on Binford's analysis of hunter-gatherer settlement systems. *American Antiquity* 47:171-178
- Wiessner, P. 1997 Seeking Guidelines through an Evolutionary Approaches: Style Revisited among the Kuhn San (Ju/hoansi) of the 1990s. In *Rediscovering Darwin*, edited by C. M. Barton and G. A. Clark, pp. 157-176, Archaeological Papers of the American Anthropological Association No. 7

(報告書)

・東京都

- 新井三丁目遺跡調査会 1988 『新井三丁目遺跡』
- 青梅市教育委員会 1991 『城の腰遺跡・霞台遺跡 (8次)』
- 北江古田遺跡調査会 1987 『北江古田遺跡発掘調査報告書 (2)』
- 吉祥寺南町遺跡調査団 1996 『東京都井の頭池遺跡群吉祥寺南町三丁目遺跡B地点』
- 吉祥寺南町遺跡調査団 1999 『東京都井の頭池遺跡群吉祥寺南町一丁目遺跡J地点』
- 吉祥寺南町1丁目遺跡調査会 1996 『東京都井の頭池遺跡群吉祥寺南町1丁目遺跡E地点』
- 久我山二丁目住宅遺跡発掘調査団 1998 『前山遺跡』
- 久我山東遺跡B地点発掘調査団 1994 『東原遺跡』 杉並区埋蔵文化財報告書第20集
- 恋ヶ窪遺跡遺跡調査会 1984 『花沢東遺跡』
- 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター 2020  
『杉並区向ノ原遺跡第3次調査』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第358集
- 小金井市荒牧遺跡調査団 2002 『荒牧遺跡』
- 小金井市遺跡調査会 1989 『野川中洲北遺跡』
- 国際基督教大学考古学センター 1976 『前原遺跡』
- 国分寺市遺跡調査会 2003 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ』
- 国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1987 『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅹ』  
国分寺市文化財調査報告第22集
- 国分寺市教育委員会 1991 『国分寺市 No. 37 遺跡調査会概報』 国分寺市文化財調査報告第34集
- 小平市地域振興部文化スポーツ課文化財担当 2020 『鈴木遺跡発掘調査総括報告書』  
小平市埋蔵文化財発掘調査報告書第58集
- 御殿山遺跡調査会 1987 『井の頭池遺跡群 武蔵野市御殿山遺跡第1地区D地点』
- 財団法人東京都埋蔵文化財センター 1983 『多摩ニュータウン遺跡 昭和57年度 (第1分冊)』  
東京都埋蔵文化財センター調査報告第4集
- 財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター 2010 『府中市武蔵国分寺跡関連遺跡・武蔵台遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第239集
- 財団法人東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター 1999 『多摩ニュータウン遺跡』

— No. 113・115 遺跡—』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 71 集  
 財団法人東京都埋蔵文化財センター 1987『多摩ニュータウン遺跡 昭和 60 年度 (第 3 分冊)』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 8 集  
 新宿区 No. 107 遺跡調査団 2000『東京都新宿区北新宿二丁目遺跡Ⅱ』  
 新橋遺跡調査会 1977『新橋遺跡』  
 杉並区教育委員会・荻窪中学校遺跡調査会 1984『地藏坂』杉並区埋蔵文化財調査報告書第 12 集  
 杉並区内遺跡発掘調査団 2007『東京都杉並区堂の下遺跡』杉並区埋蔵文化財報告書第 48 集  
 杉並区内遺跡発掘調査団 2013『東京都杉並区根河原遺跡 B 地点』杉並区埋蔵文化財報告書第 63 集  
 鈴木遺跡調査団 1980『鈴木遺跡Ⅱ』 都市計画道路小平 2・1・3 号線内  
 済美台遺跡発掘調査団 1996『済美台遺跡〔前編〕』杉並区埋蔵文化財調査報告書第 22 集  
 世田谷区遺跡調査会 1982『嘉留多遺跡・砧中学校 7 号墳』  
 世田谷区教育委員会・烏山南原遺跡調査会 1987『烏山南原遺跡』  
 世田谷区教育委員会・下山遺跡第 7 次調査会 1989『下山遺跡Ⅲ』  
 世田谷区教育委員会・世田谷区遺跡調査会 1981『廻沢北遺跡第 5・6 次調査概報』  
 世田谷区教育委員会 2001『堂ヶ谷戸遺跡Ⅴ』  
 多摩市遺跡調査会 1983『東京都多摩市東寺方遺跡—市立総合体育館建設にともなう調査』  
 多聞寺前遺跡調査会 1983『多聞寺前遺跡Ⅱ』  
 調布市教育委員会・調布市遺跡調査会 1982『しろやま (調布市入間町城山遺跡第 9 次調査概報)』  
 鶴川第二地区遺跡調査会 1991『真光寺・広袴遺跡群Ⅴ—大久保遺跡・向遺跡—』  
 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 1995a『もみじ山遺跡Ⅰ』  
 東北縦貫自動車道弘前線 (東京外かく環状道路) に係る埋蔵文化財発掘調査報告②  
 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 1995b『丸山東遺跡Ⅰ』  
 東北縦貫自動車道弘前線 (東京外かく環状道路) に係る埋蔵文化財発掘調査報告④  
 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 1995c『愛宕下遺跡・比丘尼橋遺跡・宮ヶ谷戸遺跡』  
 東北縦貫自動車道弘前線 (東京外かく環状道路) に係る埋蔵文化財発掘調査報告⑦  
 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 1995d『東京外かく環状道路練馬地区関連遺跡  
 自然科学分析編』東北縦貫自動車道弘前線 (東京外かく環状道路) に係る埋蔵文化財発掘調査報告⑨  
 東京国立近代美術館遺跡調査委員会 1991『竹橋門』  
 東京天文台構内遺跡調査団 1983『東京天文台構内遺跡』  
 東京都北区教育委員会 1988『御殿前遺跡』北区埋蔵文化財調査報告第 4 集  
 東京都教育委員会 1980『西之台遺跡 B 地点』  
 東京都教育委員会・東京都埋蔵文化財センター 1997『多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告 6』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 43 集  
 東京都埋蔵文化財センター 1996『府中市 No. 29 遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 29 集  
 東京都埋蔵文化財センター 2003『武蔵国分寺跡遺跡北方地区』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 136 集  
 東京都埋蔵文化財センター 2020『比丘尼橋遺跡 C 地点』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 356 集  
 中台島中遺跡調査会 2000『中台島中遺跡発掘調査報告書』  
 西国分寺地区遺跡調査会 1999『武蔵国分寺跡北方地区日影山遺跡・東山道武蔵路』  
 西下里遺跡調査会 2003『西下里遺跡』東久留米市埋蔵文化財調査報告書

練馬区遺跡調査会 1986 『天祖神社東遺跡』  
練馬区遺跡調査会 1987a 『葛原遺跡B地点』  
練馬区遺跡調査会 1987b 『武蔵関遺跡』  
練馬区遺跡調査会 1989a 『高稻荷遺跡』  
練馬区遺跡調査会 1989b 『扇山遺跡第4次調査』  
三鷹市遺跡調査会 1980 『井の頭池遺跡群A地点発掘調査報告』三鷹市埋蔵文化財報告第5集  
三鷹市遺跡調査会 1985 『坂上遺跡』三鷹市埋蔵文化財調査報告第11集  
三鷹市教育委員会・三鷹市遺跡調査会 1986 『古八幡遺跡』  
三鷹市教育委員会・三鷹市遺跡調査会 1997 『島屋敷遺跡I』  
三鷹市教育委員会・三鷹市遺跡調査会 2002 『天文台構内遺跡II』  
武蔵関北遺跡調査会 1993 『武蔵関北遺跡』  
明治大学校地内遺跡調査団 2015・2016 『下原・富士見町遺跡III』明治大学校地内遺跡調査研究報告書7  
早稲田大学校地埋蔵文化財調査室 1993 『城山遺跡の調査』  
早稲田大学文化財整理室 2000 『下柳沢遺跡』

## ・神奈川県

綾瀬市 1996 『綾瀬市史 9 別編考古』  
神奈川県教育委員会 1980 『寺尾遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 18  
神奈川県立埋蔵文化財センター 1984 『栗原中丸遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 3  
神奈川県立埋蔵文化財センター 1986a 『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 11  
神奈川県立埋蔵文化財センター 1986b 『田名稻荷山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 12  
神奈川県立埋蔵文化財センター 1992 『川尻遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 23  
株式会社玉川文化財研究所 2019 『西富岡・長竹遺跡第3次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 74  
株式会社盤古堂 2011 『神奈川県藤沢市稲荷台地遺跡群唐池遺跡第2地点』  
川崎市緑ヶ丘霊園内遺跡発掘調査団 1995 『緑ヶ丘霊園内遺跡第2地点・第3地点』  
慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室 1992 『湘南藤沢キャンパス内遺跡 第2巻岩宿時代』  
県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団 1995 『県営高座渋谷団地内遺跡』  
公益財団法人かながわ考古学財団 2013a 『当麻遺跡第1地点』かながわ考古学財団調査報告 287  
公益財団法人かながわ考古学財団 2013b 『小保戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告 288  
公益財団法人かながわ考古学財団 2014 『小倉原西遺跡』かながわ考古学財団調査報告 296  
財団法人かながわ考古学財団 1996 『宮ヶ瀬遺跡群VI サザランケ (No. 12) 遺跡』かながわ考古学財団調査報告 8  
財団法人かながわ考古学財団 1997a 『宮ヶ瀬遺跡群X 中原 (No. 13C) 遺跡』かながわ考古学財団調査報告 16  
財団法人かながわ考古学財団 1997b 『宮ヶ瀬遺跡群XII 上原 (No. 13) 遺跡』かながわ考古学財団調査報告 18  
財団法人かながわ考古学財団 1998a 『吉岡遺跡群V』かながわ考古学財団調査報告 38  
財団法人かながわ考古学財団 1998b 『吉岡遺跡群VI』かながわ考古学財団調査報告 39  
財団法人かながわ考古学財団 1999 『福田丙二ノ区遺跡』かながわ考古学財団調査報告 68  
財団法人かながわ考古学財団 2000 『川尻遺跡II』かながわ考古学財団調査報告 69

財団法人かながわ考古学財団 2002a 『用田鳥居前遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 128  
 財団法人かながわ考古学財団 2002b 『原口遺跡Ⅲ縄文時代（第3分冊 自然科学分析・写真図版編）』  
 かながわ考古学財団調査報告 134  
 財団法人かながわ考古学財団 2002c 『原口遺跡Ⅳ旧石器時代』 かながわ考古学財団調査報告 135  
 財団法人かながわ考古学財団 2003a 『葛原滝谷遺跡・葛原下滝谷戸遺跡』  
 かながわ考古学財団調査報告 151  
 財団法人かながわ考古学財団 2003b 『吉岡遺跡群X』 かながわ考古学財団調査報告 153  
 相模原市古淵B遺跡発掘調査団 1990 『神奈川県相模原市古淵B遺跡』  
 相模原市橋本遺跡調査会 1984 『橋本遺跡先土器時代編』  
 相模原市立博物館 2005 『古淵B遺跡旧石器時代資料再整理調査報告書』 相模原市立博物館考古資料調査  
 報告書  
 下鶴間甲一号遺跡調査団 1991 『下鶴間甲一号遺跡』  
 下森鹿島遺跡発掘調査団 1993 『下森鹿島遺跡発掘調査報告書（先土器時代編）』  
 神明若宮地区内遺跡発掘調査団 1997 『神明若宮地区内遺跡』  
 善行遺跡発掘調査団 1994 『神奈川県藤沢市善行遺跡発掘調査報告書』  
 総合文化財考古学研究室 2018 『日本後期旧石器時代・下久沢山谷遺跡・発掘調査研究報告書』  
 草柳一丁目遺跡調査会 1979 『大和市草柳一丁目遺跡』  
 玉川文化財研究所 2013 『太岳院遺跡 9008 地点 91-1 地点 92-1 地点 92-2 地点 92-3 地点  
 92-4 地点 92-5 地点 92-6 地点 93-1 地点 93-2 地点 93-4 地点 95-1 地点 96-1 地点  
 96-2 地点 97-1 地点 200202 地点 尾尻尾崎遺跡 9106 地点 水神遺跡 9312 地点 9403 地点  
 9603 地点 今泉西堀遺跡 9601 地点』  
 中村遺跡発掘調査団 1987 『中村遺跡』  
 奈良地区遺跡調査団 1986 『奈良地区遺跡群Ⅰ 発掘調査報告 No. 11 地点 受地だいやま遺跡 上巻』  
 藤沢市教育委員会 1996 『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書 第3巻 先土器時代』  
 南葛野遺跡発掘調査団 1995 『神奈川県藤沢市南葛野遺跡』  
 明治大学考古学研究室・月見野遺跡群調査団 1969 『概報月見野遺跡群』  
 大和市教育委員会 1983 『深見諏訪山遺跡』 大和市文化財調査報告書第14集  
 大和市教育委員会 1984 『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅲ』  
 大和市文化財調査報告書第17集  
 大和市教育委員会 1986 『月見野遺跡群上野遺跡第1地点』 大和市文化財調査報告書第21集  
 大和市教育委員会 1990 『長堀北遺跡』 大和市文化財調査報告書第39集  
 大和市教育委員会 1999 『大和市No. 210遺跡』 大和市文化財調査報告書第71集  
 大和市No. 199遺跡発掘調査団 2002 『上草柳遺跡群大和配水池内遺跡発掘調査報告書』  
 大和市北部処理場建設予定地内遺跡調査団 1987 『長堀南遺跡発掘調査報告書』  
 大和市文化財調査報告書第28集

## ・埼玉県

上尾市遺跡調査会 1993 『在家遺跡—第1次調査—』 上尾市遺跡調査会調査報告書第4集  
 上尾市教育委員会 1983 『前戸崎遺跡』 上尾市文化財調査報告第17集  
 大宮市遺跡調査会 1993 『大宮遺跡調査会報告第41集 C-26号遺跡』

大宮市遺跡調査会 1995 『大宮遺跡調査会報告第 48 集 西大宮バイパス No. 6 遺跡』

大宮市遺跡調査会 1998 『大宮市遺跡調査会報告第 63 集 中川貝塚 - 第 3 次調査 -』

川口市遺跡調査会 1987 『赤山 古環境編』川口市遺跡調査会報告第 10 集

川口市遺跡調査会 1989 『赤山 本文編・第 1 分冊』川口市遺跡調査会報告第 12 集

川口市教育委員会 1985 『川口市文化財調査報告書第 23 集 - 吠原遺跡 -』

北本市教育委員会 1996 『提灯木山遺跡 - 第 2 次調査 -』北本市遺跡調査会報告書第 2 集

埼玉県教育委員会 『日本住宅公団（川越・鶴ヶ島地区）埋蔵文化財発掘調査報告 鶴ヶ丘』  
埼玉県遺跡発掘調査報告書第 8 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983 『東北新幹線埋蔵文化財発掘調査報告 I 一久保山遺跡一』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 29 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1985 『鶴ヶ丘（E 区）』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 45 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986 『中砂遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 60 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1990 『提灯木山遺跡』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 92 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994 『花ノ木・向原・柿ノ木坂・水久保・丸山台』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 134 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1995a 『向山 / 上原 / 向原』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団第 155 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1995b 『西久保 / 金井上』埼玉県埋蔵文化財調査事業団第 156 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1996a 『丸山 / 青梅道南 / 十文字原 / 東武蔵野 / 西武蔵野』  
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 164 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1996b 『坂東山 / 坂東山西 / 後 B』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 166 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1996c 『栗屋 / 屋淵 / 中台』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団第 171 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997 『戸崎前遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 187 集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998 『中台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団第 202 集

砂川遺跡調査団 1974 『埼玉県所沢市砂川先土器時代遺跡一第 2 次調査の記録一』

東洋大学中道遺跡発掘調査団 1976 『中道遺跡発掘調査報告書』

所沢市教育委員会 1999 『和田遺跡第 9 次調査』所沢市埋蔵文化財調査報告書第 19 集

所沢市教育委員会 1993 『甲館出遺跡 第 1・2 次調査』

所沢市教育委員会 1997 『後内手遺跡第 1 次調査・東の上遺跡第 38 次調査』  
所沢市埋蔵文化財調査報告書第 11 集

所沢市教育委員会 2008 『本郷東上遺跡第 1 次調査・寺山遺跡第 1 次調査・畦の前遺跡第 2・4～7 次  
調査・東内手遺跡第 2・4 次調査・美園上遺跡第 4 次調査・日向遺跡第 2 次調査・新山遺跡第 1 次調査  
・城遺跡第 3 次調査・比良遺跡第 3 次調査・中台遺跡第 1 次調査・宮前遺跡第 36・37 次調査』  
所沢市埋蔵文化財調査報告書第 43 集

所沢市教育委員会 2014 『北久米遺跡第 1～4 次調査』所沢市埋蔵文化財調査報告書第 61 集

富士見市遺跡調査会 1984 『針ヶ谷遺跡群』富士見市遺跡調査会調査報告第 23 集

富士見市教育委員会 1976『富士見市文化財報告X I』文化財報告第 11 集  
富士見市教育委員会 1986『富士見市遺跡群IV』富士見市文化財報告第 36 集  
宮代町教育委員会 1983『前原遺跡』宮代町文化財調査報告第 1 集  
和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 1994『城山南遺跡』(第 1 次・第 2 次)  
早稲田大学所沢校地文化財調査室 1991『早稲田大学所沢校地内埋蔵文化財調査報告書  
お伊勢山遺跡の調査 第 2 部旧石器時代』

## ・千葉県

北長山野遺跡調査会 1990『東・北長山野遺跡』  
公益財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X X VII  
—白井市復山谷遺跡(6次～8次)(下層)—』千葉県教育振興財団調査報告第 686 集  
公益財団法人千葉県教育振興財団 2014『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X X X』  
千葉県教育振興財団調査報告第 733 集  
公益財団法人千葉県教育振興財団 2017『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書 10 —柏市小山台遺跡  
旧石器時代編—』千葉県教育振興財団調査報告第 763 集  
国際文化財株式会社 2011『谷津貝塚埋蔵文化財発掘調査報告書 I』  
財団法人君津郡市文化財センター 1987『中六遺跡』  
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第 22 集  
財団法人君津郡市文化財センター 1998『百々目木B・C・清水頭・清水沢遺跡』  
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第 144 集  
財団法人山武郡市文化財センター 1994『砂田中台遺跡(旧石器・縄文時代編)』  
財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書第 17 集  
財団法人千葉県教育振興財団 2006『千原台ニュータウンX V—市原市押沼大六天遺跡(下層)—』  
千葉県教育振興財団調査報告第 536 集  
財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター 2008『千葉東南部ニュータウン 39  
—千葉市太田法師遺跡 1(旧石器時代)—』千葉県教育振興財団調査報告第 600 集  
財団法人 千葉県史料研究財団 2003『千葉県史編さん資料  
富里市東内野遺跡旧石器時代石器資料調査報告書』  
財団法人千葉県文化財センター 1978『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VI』  
財団法人千葉県文化財センター 1982a『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書 I —館林、水砂、花前II -1—』  
財団法人千葉県文化財センター 1982b『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VII』  
財団法人千葉県文化財センター 1984a『市原市瀬又北・瀬又南、千葉市大木戸・板倉町遺跡  
—千葉外房有料道路建設予定地内埋蔵文化財調査報告書—』  
財団法人千葉県文化財センター 1984b『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書II  
—花前I、中山新田II、中山新田III—』  
財団法人千葉県文化財センター 1984c『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV—No. 7 遺跡—』  
財団法人千葉県文化財センター 1985a『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V  
—No. 2 遺跡・No. 10 遺跡—』  
財団法人千葉県文化財センター 1985b『主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅宅地関連事業)地内  
埋蔵文化財調査報告書』

財団法人千葉県文化財センター 1986 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ  
一元割、聖人塚、中山新田Ⅰ—』

財団法人千葉県文化財センター 1987 『房総考古学ライブラリー1 先土器時代』 弘文社

財団法人千葉県文化財センター 1989a 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』  
千葉県文化財センター調査報告第164集

財団法人千葉県文化財センター 1989b 『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ  
—佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡—』

財団法人千葉県文化財センター 1990 『佐倉市大作遺跡  
—佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—』

財団法人千葉県文化財センター 1991 『四街道市内黒田遺跡群』 千葉県文化財センター調査報告第200集

財団法人千葉県文化財センター 1993 『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書2  
—御塚山遺跡第7地点の調査—』

財団法人千葉県文化財センター 1994a 『四街道市御山遺跡(1)物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ  
(第1分冊)』 千葉県文化財センター調査報告第242集

財団法人千葉県文化財センター 1994b 『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅷ 取香和田戸遺跡  
(空港No.60遺跡)』 千葉県文化財センター調査報告第244集

財団法人千葉県文化財センター 1994c 『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』  
千葉県文化財センター調査報告第253集

財団法人千葉県文化財センター 1994d 『石揚遺跡』 千葉県文化財センター調査報告第255集

財団法人千葉県文化財センター 1996a 『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書』  
千葉県文化財センター調査報告第276集

財団法人千葉県文化財センター 1996b 『市原市武士遺跡1』 千葉県文化財センター調査報告第289集

財団法人千葉県文化財センター 1997a 『主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2  
—干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡—』

財団法人千葉県文化財センター 1997b 『本埜村大門遺跡』 千葉県文化財センター調査報告第313集

財団法人千葉県文化財センター 1998 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅡ  
—白井町一本桜南遺跡—』 千葉県文化財センター調査報告第318集

財団法人千葉県文化財センター 1999 『四街道市出口・鐘塚遺跡』  
千葉県文化財センター調査報告第357集

財団法人千葉県文化財センター 2001 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ』  
千葉県文化財センター調査報告第405集

財団法人千葉県文化財センター 2003a 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書1』  
千葉県文化財センター調査報告第445集

財団法人千葉県文化財センター 2003b 『新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ  
—鎌ヶ谷市五本松No.3遺跡—』 千葉県文化財センター調査報告第457集

財団法人千葉県文化財センター 2003c 『千原台ニュータウンⅩ  
—市原市草刈遺跡(東部地区旧石器時代)—』 千葉県文化財センター調査報告第462集

財団法人千葉県文化財センター 2004a 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ』  
千葉県文化財センター調査報告第483集

財団法人千葉県文化財センター 2004b 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅩ』

一十余三稻荷峰遺跡（空港 No. 67 遺跡）〔旧石器時代編〕一』千葉県文化財センター調査報告第 485 集  
山武考古学研究所 1985 『寺向・捕込附遺跡 発掘調査報告書』  
酒々井町教育委員会 2019 『墨古沢遺跡総括報告書』墨古沢遺跡保存整備事業報告書（1）  
千葉県企業庁・財団法人千葉県都市公社 1975 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』  
千葉県企業庁・財団法人千葉県都市公社 1976 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』  
富里村教育委員会 1977 『東内野遺跡発掘調査概報』  
野田市遺跡調査会 1987 『千葉県野田市 槇の内遺跡—第Ⅳ次発掘調査—』遺跡調査会報告第 5 冊  
平賀遺跡群発掘調査会 1986 『平賀 平賀遺跡群発掘調査報告書』  
船橋市教育委員会 1983 『下郷後』  
船橋市遺跡調査会 1985 『西の台（第 2 次）—船橋市西の台遺跡発掘調査報告書—』

## ・群馬県

安中市教育委員会 1994 『中野谷地区遺跡群』  
伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡—自然科学分析編—』  
伊勢崎市文化財調査報告書第 54 集  
大泉町教育委員会 1984 『御正作遺跡』  
群馬県教育委員会 2011 『小暮東新山遺跡』  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015 『石神遺跡』  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 598 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 『神保富士塚遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 154 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994 『天引狐崎遺跡Ⅰ』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 161 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999a 『三和工業団地Ⅰ遺跡（1）旧石器時代編』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 246 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999b 『東長岡戸井口遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 257 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『光仙房遺跡（集落編）』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 308 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『今井三騎堂遺跡—旧石器時代編—』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 325 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008a 『上武道路・旧石器時代遺跡群（1）』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 418 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008b 『前道下遺跡（2）—旧石器時代編—』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 437 集  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 『下触牛伏遺跡』  
藤岡市教育委員会 1995 『藤岡北山 B 遺跡』



## ・栃木県

財団法人栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1996『八幡根東遺跡』

栃木県埋蔵文化財調査報告第 181 集

財団法人栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1999『多功南原遺跡』

栃木県埋蔵文化財調査報告第 222 集

佐野市教育委員会 2004『上林遺跡』佐野市埋蔵文化財調査報告書第 30 集

## ・茨城県

財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1998『武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編』

財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第 15 集

北茨城市史編さん委員会 1982『細原遺跡』

## ・静岡県

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007『向田 A 遺跡』

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 178 集

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009a『梅ノ木沢遺跡Ⅱ（旧石器時代編）』

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 206 集

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009b『秋葉林遺跡Ⅰ 第二東名 No. 25 地点

（旧石器時代～縄文時代草創期編）』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 207 集

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010『梅ノ木沢遺跡Ⅲ（旧石器時代編 2・縄文時代草創期編）』

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 233 集

## ・山梨県

富沢町誌編纂室 1971『天神堂遺跡発掘調査報告書（旧石器時代）』

山梨県教育委員会 1987『丘の公園地内遺跡範囲確認調査（第 1 次）報告書（丘の公園第 1・2・3・4 遺跡）』

山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 26 集

高根町教育委員会 1987『町内遺跡分布調査報告書』

山梨県教育委員会 1989『丘の公園第 2 遺跡発掘調査報告書、丘の公園地内遺跡範囲確認調査（第 2 次）

報告書（丘の公園第 5 遺跡）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 46 集

## ・長野県

和田村教育委員会 1975『男女倉』

## 論文の内容の要旨

本研究では砂川期の南関東地方を主な対象として、地域で異なる砂川期の石器群が行動論上どのように位置づけられるか検討を行い、当該期の居住形態及び集団の行動復元を試みた。

砂川期は後期旧石器時代後半期の一時期で、最終氷期最盛期の寒冷な時期にあたり、年代的には約 24,000 ~ 22,500 cal BP、編年的には武蔵野編年でⅡ b 期前半、相模野編年で第Ⅳ期前半、相模野段階編年で段階Ⅵに相当する。当該期では武蔵野台地と相模野台地では発達した石刃石器群が、下総台地では有樋尖頭器石器群が主に分布することが知られている。

本研究ではまず砂川期とその前後の時期を含むⅣ下最新段階から終末期にかけての石器群の変化を検討した。放射性炭素年代測定値と二側縁加工尖頭形石器の型式的特徴、層序に主に着目し、相模野台地と武蔵野台地で AMS 年代測定が行われた遺跡と複数文化層が確認された遺跡を中心に検討を行った結果、砂川期は前半と後半の 2 時期に分けられた。

砂川期前半は年代では 23,500 cal BP 前後、地質層序では相模野台地で L2 層～B1 層下部、武蔵野台地でⅣ層中部～Ⅲ層に相当し、基部が尖る斉一的な大形～小形の石刃素材二側縁加工尖頭形石器が製作される。有樋尖頭器は大形で両面調整があるものが多く、男女倉型や東内野型の典型的なものもこの時期に確認される場合が多い。両面調整が多いため素材が不明なものが多いが、判明したものをみると石刃・縦長剥片素材が多い。

砂川期後半は年代では 23,000 cal BP 前後、地質層序では相模野台地で B1 層中・下部、武蔵野台地でⅣ層上部～Ⅲ層に相当し、基部が丸くなるものや打面が残る石刃・縦長剥片素材の中・小形の二側縁加工尖頭形石器が製作される。有樋尖頭器は周縁加工や片面加工の中・小形のものが増加する。また、後半になると石刃石器群でも全体的に黒曜石の割合が増える傾向がある。なお、尖頭器石器群は砂川期前半でも黒曜石が大半を占める場合が多い。

これらの石器群の変遷は大宮台地や赤城山南麓などの周辺地域でも概ね踏襲されるとみられるが、下総台地及び信州黒曜石原産地周辺については尖頭器石器群優位かつ年代測定事例が少なく堆積も薄いため、細分ができなかった。

その後上記の細分編年を基に各台地の石材消費状況と石器製作技術構造を検討した。

相模野台地は石刃石器群優位で、主に凝灰岩とチャートを石材に使用していた。相模川上流部の凝灰岩原産地で初期工程が多く行われ、境川沿いでチャートが多く搬入・消費される特徴がみられた。また、メノウ・玉髄、碧玉の遠距離石材が主に大規模遺跡に少量搬入されていた。石刃石器群では大半の遺跡で初期工程を除く一次加工・二次加工が行われ、二側縁加工尖頭形石器及び部分加工石器が大量生産されていた。また、加工具も多く製作されるが、こちらについては継続的利用が多く、遠距離石材が用いられる場合も多くみられた。

武蔵野台地は石刃石器群優位だが尖頭器石器群も一定数確認された。石刃石器群は主にチャートを、尖頭器石器群は主に信州産黒曜石を石材に使用していた。多摩川・入間川上流部のチャート原産地で初期工程が多く行われ、相模野台地と同様に主に大規模遺跡でメノウ・玉髄、碧玉の遠距離石材が少量搬入されていた。また、台地北東部から南部にのみ黒色頁岩と硬質頁岩、東内野型有樋

尖頭器が搬入・消費されていた。相模野台地と同様に石刃石器群では大半の遺跡で初期工程を除く一次加工・二次加工が行われ、二側縁加工尖頭形石器及び部分加工石器が大量生産されていた。また、加工具も多く製作されるが、こちらについても相模野台地と同様の状況がみられた。尖頭器石器群では、黒曜石製の男女倉型有樋尖頭器を伴う石器群は遺跡内で二次加工を主に行い、東内野型有樋尖頭器を伴う石器群は硬質頁岩や黒曜石素材のものを単体で搬入するが多かった。

下総台地は尖頭器石器群優位で、台地北西部は硬質頁岩と黒曜石を、台地北東部及び南部は嶺岡産珪質頁岩を主な石材として使用していた。また、房総半島や古東京川周辺で採れるメノウ・玉髄やチャートを主な石材とする場合もあった。房総半島南部では石刃石器群で嶺岡産珪質頁岩の初期工程が多く行われ、台地北東部では嶺岡産珪質頁岩の、台地北西部では硬質頁岩の大規模な尖頭器石器群が分布していた。尖頭器石器群では硬質頁岩を主とする石器群で主に二次加工が行われ、嶺岡産珪質頁岩を主とする石器群で初期工程を除く一次加工・二次加工が行われていた。尖頭器石器群は東内野型有樋尖頭器石器群が大半で、黒曜石製の男女倉型は単体資料にとどまる。

各台地の石器群の出土状況や母岩の共有状況を観察すると、石刃石器群に尖頭器が、尖頭器石器群に尖頭形石器が共伴する状況が一定数みられた。また、尖頭器石器群では尖頭器や加工具の素材に石刃・縦長剥片を用いる場合が多く、尖頭器製作技術の一次加工に周縁型石刃技法を用いていると考えられる場合があった。従来は石刃石器群と尖頭器石器群は時期的に異なるか、それぞれ別集団による独立した石器群と考えられてきたが、これらの事実から、砂川期の石器群は石刃石器群だけではなく尖頭器石器群も各地域で同時期に存在し、両石器群は石材や場所に応じて使い分けられる技術が異なることにより残された相補的な石器群であると解釈した。

上記の石器群の内容を踏まえて、南関東地方における当該期の集団の動きと、居住形態を検討した。

まず、砂川期の台地ごとに優位となる石器群が異なる要因について検討した。相模野台地と武蔵野台地の近距離石材を用いる石刃石器群は、主要石器となる二側縁加工尖頭形石器の破損リスクが高いものの、原産地が近距離にあり石材採集コストが低いため採用されたと考えた。一方、遠距離石材を主に用いる下総台地の尖頭器石器群は、近距離に優良な石材産地がなく石材採集コストが高いが、主要石器となる尖頭器の破損リスクが低く柔軟性が高いため採用されたと考えた。両技術は状況に応じて使い分けが行われ、近距離移動（主に台地内遊動）時は石刃技法を、遠距離移動（主に台地外遊動）時は尖頭器製作技術を主に採用したと考えた。

また、砂川期の石刃石器群では二側縁加工尖頭形石器の大量生産が行われ、台地内遊動が主となり資源予測性が高く特定の狩猟行動に特化していた可能性があることから、信頼性システムが採用されていたと考えた。一方、台地外遊動時及び下総台地では遊動範囲が広いため資源予測性が低く、長距離の遊動に適した装備として汎用性が高く破損リスクが低い尖頭器が選ばれ、保守性システムが採用されたと考えた。

相模野台地と武蔵野台地では台地中央部の湧水池や源流部にそれぞれ拠点地が形成され、拠点地では石器・礫共に多数出土し、多種類の石材が確認された。拠点地から放射状の移動が主に行われていることから、両台地ではコレクターシステムが採用されていたと解釈した。一方、下総台地にも拠点地が形成されるが、石材が特化する傾向がみられ、線状の移動を行うことから、基本はコレクターシステムと考えられるが、典型的なコレクターには当てはまらなないと考えた。

下総台地で確認される東内野型有樋尖頭器という特殊化した型式が確認される背景として、上記のような下総台地独自の居住形態が背景にあると考えると共に、古思川・古渡良瀬川などの地形的障壁も要因の一つとして考えた。一方、黒曜石製の男女倉型有樋尖頭器は、南関東地方では数は少ないが広範囲に分布が確認されることから、特別な石器として扱うのではなく、尖頭器製作技術と石刃技法が状況に応じて使い分けられていたことによる行動上の差異と考えた方がよいのではないかとした。

各台地の居住行動をみると、相模野台地では砂川期前半では台地中央部に拠点地をもち、そこから放射状にタスクグループの派遣を行っていたとみられた。最も多い石材採集行動は台地を北上して凝灰岩原産地へ行く行動で、次いで多いのは多摩丘陵を經由して多摩川上流部からチャートを採集する行動である。

武蔵野台地も台地中央部に拠点地があり、そこを起点として放射状にタスクグループの派遣を行っていたとみられる。最も多い石材採集行動は台地を北西に進んで多摩川・入間川上流部のチャート原産地へ行く行動で、多摩川を更に遡って信州黒曜石原産地へ行く台地外行動も比較的行われたと考えられる。信州産黒曜石採集を行う際は長距離となるため、尖頭器を基本装備とし、パーティー編成が行われたと考えられる。

下総台地では尖頭器石器群の拠点地から直線的な移動により石材採集を行い、目的とする石材を集中的に調達していたとみられる。石材採集行動は硬質頁岩の場合は主に下野北総回廊を北上して行われ、信州産黒曜石の場合は北関東回りで行われたと考えられる。嶺岡産珪質頁岩の場合は分水界沿いに房総半島を南下する行動が主体であったと考えられる。

砂川期後半では、黒曜石需要の増大に応じて台地外遊動の頻度が増えたと考えられる。相模野台地では台地中央部の拠点地が減り、台地南部に行動範囲が広がる傾向がみられる。

武蔵野台地では台地中央部に引き続き拠点地が存在するが、一部の拠点地がやや北東に移動する一方、台地西部と入間台地の遺跡が減少することから、信州産黒曜石採集行動を行う際に北関東回りのルートの利用頻度が増えた一方、多摩川を遡るルートの利用頻度が減った可能性がある。

黒曜石の需要が増えた原因の一つとして、砂川期の石刃石器群は台地内遊動が中心であったことから、長期間の限られた場所での遊動により、資源分布にストレスが生じ、そのリスクを低減するために台地外遊動を積極的に行い、その結果黒曜石採集に結びついた可能性を指摘した。